ここだけのヒミツ！ベテラン記者の失敗談

みんな最初は一年生

5本目

記事の間違いは訂正できない!?

NIE（毎週月曜日）のデスク＊　**山崎啓明記者**

新聞記事に間違いがあると、「訂正」を出します。初めて訂正を出したのは新人のころです。ある有名な作家の講演会を取材し、話の内容をまとめた小さな記事でした。

作家の父親について「教師だった」と書いたのですが、教師は父親ではなく夫の職業でした。メモをよく確かめずに書いた結果です。記事を読んだ作家のファンから、すぐに間違いを指摘する電話がありました。言われて思い出しましたが、その作家には、父親をモデルにした有名な作品もありました。おわびの電話を入れると、作家本人からもきつくしかられました。大勢の人が読む文章を書くことの怖さを実感した最初の体験です。

「記事の間違いは訂正できない」。新人のころ、そう教えられもしました。記事を読んだ人が必ず訂正も見るとは限らないからです。分かってはいても、最近も間違いを見落とし、訂正を出してしまいました。

今はネットもあり、より多くの人が記事を目にします。たまたま気付かれなかった間違いが、そのままデータベースに記録として残る可能性もあります。記事は何よりまず正確に。その上で速く、分かりやすく―。そう心がけながら毎日、新聞を作っています。

＊デスク＝記者に取材の指示やアドバイスをして、記者が書いた原稿を直して完成させる人

毎週日曜日　信毎こども新聞

こども記者の記事大募集！

不安なことは信毎記者に相談してね

「信毎こども新聞」にのせるこども記者の記事を募集しています。記事の文字数は400字くらい。記事に合う写真も付けて、住所、名前、学年、電話番号を書いて、信濃毎日新聞地域活動部へ郵便（〒380-8546長野市南県町657）か、ファクス（026-236-3193）で送ってください。記事のしめ切りはありません。いつでも受け付けています。みんなからの応募を待っています。

チャレンジしてみたいけど、何をどのように取材したらいいか分からないなど、ちょっとギモンや不安に思ったことは、気軽に信毎の記者に電話、手紙、ファクスで相談してくださいね。ホンモノの記者がていねいに答えますよ。●問い合わせ／信濃毎日新聞地域活動部　電話026-236-3110

井上裕子記者
土橋正道記者
山嵜文智記者

こども記者、活躍中です。

▶ 信毎こども新聞　2009年9月13日（日）付より

こども記者ニュースno. 4でも紹介しましたが、伊那市高遠町で開かれた高遠ブックフェスティバルでのこども記者の活躍を信毎こども新聞の紙面でも伝えました。

第１回ブックフェスの高遠町で「こども新聞」発行

何でも撮って聞いて記事に

「1日に300～400個売れる時もあるんだよ」という揚げパン屋さんに取材したこども記者

桜で有名な伊那市高遠町で8月29、30日、「第1回高遠ブックフェスティバル」が開かれました。高遠を「本の町」にしようというこのイベントと街の様子を、地元の小学生ら12人の「こども記者」が取材して新聞を作りました。「どこに行ってもいいよ」とフェスティバルのスタッフの大人たちに送り出され、こども記者たちは街へと歩きだしました。

「こんにちはー」

こども記者たちが道ですれ違う人たちと元気にあいさつを交わします。「がんばってね」と励ましの言葉も返ってきます。大きなレンズが付いた一眼レフのデジタルカメラを首から下げ、腕には「こども新聞記者」と書かれた黄色い腕章。見てすぐ、こども記者と分かるからです。

気になったものは何でも撮ります。最初に「撮っていいですか」と聞くのがマナーで、聞いた話はメモを取り、高遠町総合福祉センター「やますそ」にできた編集部に帰って記事にしました。

伊那市西春近南小6年の春日峻治君は呼び鈴を押しました。境内の大きな「極楽の松」について聞くためです。木曽郡上松町上松小3年の合戸優平君は、突然の取材にも親切に答えてくれた住職さんをパチリ。

北村彩夏さん（伊那市西春近南小6年）と、吉沢萌さん（同5年）、菜央さん（同2年）姉妹の3人は、同市高遠町総合支所で「ここは何をする所？」と仕事中の男性に取材。図書館前の広場では揚げパン屋さんに「人気がある種類は？」などと聞きました。

北村さんは、古本屋さんにあった120年前の本の値段が3万6千円もすることなどを記事に。萌さんは街を一望できる高台にいたヤギと、子どものころ、ヤギに髪を食べられてしまったという横浜市の女性の話を紹介しました。

「やますそ」では、作家の角田光代さんの講演会がありました。約100人を前に、こども記者の代表が撮影。同市伊那北小6年の武内凜王君は「会場の視線が気になったけれど、うまく撮れた」と話していました。

完成した「高遠こども新聞」は8㌻で、路上の本棚から本を選んで楽しむ人、名物の高遠まんじゅうの紹介など、写真と記事がいっぱい。「やますそ」前で配った約300部はすぐなくなりました。武内君と同じグループだった同6年、大橋直紀君は「自分の写真や記事が新聞になり、知らない人にも手渡せて、うれしさ倍増」と喜んでいました。

編集部の大人のスタッフたちは「気持ちが真っすぐ出たいい写真が多く、記事もよかった。来年も作りたい」と話していました。

完成した「高遠こども新聞」

作家の角田光代さん（左から２人目）にカメラを向けるこども記者。「（有名人を追いかける）パパラッチになった気分」

伊那などの小学生12人 腕章巻いて取材

月間ランキング

テーマは…

あなたがしているエコなこと 教えてね！

みんなの意見を紹介する月間ランキングを募集します。自分がしているエコなことを1つだけ教えてね。ハガキに住所、氏名、学年、男女を書いて、〒380-8546長野市南県町657「こども新聞」係へ10月28日（水）までに送ってね！ 11月1日（日）付の「信毎こども新聞」で発表します！「頭のストレッチ」のクロスワードの答えといっしょに答えてね。

クロスワードの正解当選者にはプレゼントがあるなーの

信毎の新聞語

第2版

【完全原稿】かんぜん・げんこう

デスクがまったく直す必要がない完ぺきな記事。記者がデスクに出した原稿が、分かりにくかったり、人の名前が間違っていたりすると、デスクに「完全原稿を出せ！」と怒られる。でもめったにできません（笑）。

第10回こども新聞コンクール

受賞作品、17日の特集号にのりました

長野県内の小学生たちが作った新聞、9637点から選ばれた入賞入選作品を、10月17日（土）付の信毎といっしょにお届けした特集号で紹介しました。信毎のホームページ（http://www.shinmai.co.jp/）でも12月ごろには見られるようになるのでお楽しみに。

◎入賞入選作品展示会
10月23日（金）～28日（水）
ながの東急百貨店5階連絡通路

クロイノ　高橋智隆さん製作

今、注目のロボットクリエーター高橋智隆さんが木曽にやってくる！

かんなの達人・上条勝さんも登場！

最先端ロボットのお話とロボット作り、伝統の技を体験しよう！

かんながけもできるよ

第5回信毎こどもスクール「モノづくりの極意～最先端ロボットと木曽伝統の技」
11月1日（日）13:00～15:30（お話＋体験教室）福島小学校体育館
まだまだ参加者募集中です。お話は中学生以上のみの参加もOKです。くわしくは、信毎ホームページ「イベント&チケット」コーナー（https://info.shinmai.co.jp/event/）で。